

読	み	替	え	ゼ	ア	教	室														
経	済	学	部	3	年	長	束	香	蓮												
選	ん	だ	本	の	タ	イ	ト	ル	:												
『	女	の	子	が	生	き	て	い	く	と	き	に	,	覚	え	て	い	て	ほ		
し	い	こ	と	』																	
著	者	:	西	原	理	恵	子														
出	版	社	:	株	式	会	社	KADOKAWA													
出	版	年	:	2017	年																

全女子、王子様は待ちません！

「女の人があんまり働きすぎたら結婚でき
ひんのちゃう？」就職の相談をしている最中、

父から言われた言葉だ。それでも、就職活動
をしながら、悶々と自分の今後の生き方に悩
む日々。そんな悩みを抱える中で、パッと目
に入ったのが本書であった。

私自身、学生という肩書がなくなる時期に
差し掛かり、本書との出会いはこれから生き
る道に覚悟を決めさせられたような、衝撃的
な一冊との出会いとなった。

本書は、漫画「毎日かあさん」を描いた西
原理恵子さんの著書である。漫画「毎日かあ
さん」では、主婦の日常生活などが漫画で描
かれているのに対し、こちらは女の子からお
母さんになるまでの自身の経験と、子育てを
終えるまでに学んだ女の子の生き方のポイント

トが記されている。筆者が一人の母として語る内容だからこそ、読み終える頃には、自然と自分にも訴えかけられているような気分になるだろう。

「どんな時でも、次の一手は、自分で考えて、自分が選ぶ。王子様を待たないで。幸せは、自分で取りに行ってください。」

私は、この文を目にしたとき、次の一手という言葉から将棋の対局が思い浮かんだ。将棋の対局での一手がどう考えられているのか、

ご存知だろうか。対局中、棋士らの一手は、何手か先のことよりも今の状態で使える戦略が何通りあるかという、横の考えを強く意識しているらしい。筆者は、女の子が夢見がちだからこそ、生き抜くための戦略を考えておかなければならないと述べるのには、この考えが当てはまる。

本を読む前の私自身は横の考えどころか、今の生きる道さえこのままでいいのかと地に

足もついていない様だった。この本を通じて、

反抗期だった時の幼い自分、これから社会で

生きる自分、母親になった時の自分という視

点を思い浮かばせることができた。それは、

自分が今まで成長できたことの確信にもなり、

これから待ち受ける未来への楽しみにもなっ

た。

今まで歩いてきた道をはむしやりに生き抜

いた筆者から、力を貰える一冊である。